

# 活動報告書

報告者氏名: 高橋 和秀

所属: 横浜市立上菅田特別支援学校

記録日: 2014年 2月28日

## 【対象生徒の情報】

○学年 高等部 1 年生

○障害名 肢体不自由 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー

## ○障害と困難の内容

中2で難病を発症し、学校に通えるまで体調が回復してきている生徒である。末梢神経の疾患のため、手の脱力やしびれのため重たい物を持つことが難しい。教室では自分の席に座っていることが多く、普段は独歩での歩行は可能だが、体に力が入らないときや痛みを生じるときには、車いすを利用する状況が続いていた。

発症前は健常で過ごしていたが、発症後は体を動かすことができないまま中学3年生当時の1年間を過ごしていたため、やりたいことを見つけられていない。入学してから面談を行った際に、「音楽をやってみたい」という生徒からの発信があった。音楽の話題には参加することが多い。また、楽器のギターやキーボードなど音楽演奏に関して興味をもっているが、実際に弾いたことはない。

## 【活動目的】

### ○当初のねらい

「音楽をやりたい」という生徒の思いを実現していくこととする。「好きな曲を演奏してみたい」という願望をもっていることから、実現のために手立てを検討していく。ただし、ギターを弾く、ピアノを弾くという具体的なイメージは決まっていない。ギターが弾けたらカッコいい、コードが簡単そう、というイメージから始まっている。学級では、ギター演奏やピアノ演奏が得意な教員がいることから、音楽の知識や技能についてアドバイスを得ることができる環境である。

本人がもっている音楽演奏のイメージや気持ちをくみながら、音楽演奏の楽しさを伝えたり、iPadのアプリを使用したりすることで「自分にもできそう」「やってみたい」という意欲を高めるようにしていく。

### 目標

- ・音楽演奏において、iPadを活用しながら効率よく取り組むことができる。
- ・音楽演奏ができるようになることで、自分に自信をもって、他のいろいろなことにも取り組めるようになる。

○実施期間 H25.4～

○実施者 高橋和秀

○実施者と対象生徒の関係 学級担任

## 【活動内容と対象生徒の変化】

### ○活動の具体的内容

面談を受けて、iPadが音楽演奏のきっかけとなった。本物のギターが重くて持てないことを考慮し、音楽演奏のイメージをもってもらうためiPadのアプリ『GarageBand』でアプローチすることにした。

#### ① 弾きたい曲を選ぶ。

生徒が好きな曲を選ぶことで意欲的に活動することを期待する。  
インターネットで検索する。検索キーワード「レミオロメン 3月9日」  
動画アプリ『YouTube』(図1)で曲を聴く。

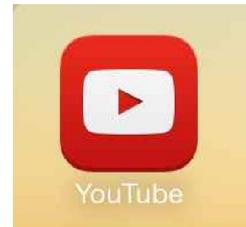


図1 「YouTube」

#### ② ギターアプリでの演奏に取り組む。

使用したアプリ『GarageBand』(図2)  
音や弦の表現が本格的で演奏を録音することができる。  
Fのコードもボタン一つ押すと音が鳴り、とても簡単に演奏することができる。



図2 「GarageBand」

#### ③ ギター(実物)に取り組む。(図5)

教員と一緒にコードの練習をする。  
使用したアプリ『GuitarChord ギターコード』(図3)  
コードを覚えたり、指の位置を確認したりすることができる。  
使用したアプリ『n-Track Tuner』(図4)  
ギターのチューニングを行うことができる。



図3 「GuitarChord」

#### ④ 夏休み中に自宅でギター練習を行う。

学校で練習したコードを反復練習する。

#### ⑤ 10月～文化祭まで音楽グループでキーボードの演奏練習を行う。

#### ⑥ 11月 文化祭で音楽グループとして発表する。

#### ⑦ 11月 学級の帰りの歌をキーボードで演奏し始める。

※右手でのメロディ演奏を行う。

#### ⑧ コードを覚える。両手で弾けるように練習する。(図6)



図6 「コードを学ぶ」



図4 「n-Track Tuner」



図5「ギターに取り組む」

## OiPadの活用に関して

今回の音楽演奏をやりたいという生徒の思いを実現するために、実現しやすい環境を整えることが必要であった。本物のギターで演奏するのは、生徒からギターは重くて持てないし、弾き方がわからないと拒否気味であった。教員と一緒にiPadの『GarageBand』で演奏をすることで、音楽演奏が難しいと感じることへの敷居を低くできるため、演奏を続けていけるのではないかと考えた。

このアプリのよい点は指先で画面をスワイプすることで本物に近い音が簡単に出ることである。コードをあらかじめ設定しておき、コードのボタンに触れる、もしくは画面上の弦を弾くとコード音がそのまま出てくる。

新入生歓迎会以降、コードでの演奏はかなり上達していたので、教員から「やってみる」と促した。生徒も「やってみる」と快諾したことから、ギター（実物）を持って指でコードを抑える練習に移ることにした。このときのiPadの役割は、自主練習の際にコードの押さえ方、演奏動画などを調べるなどのサポート的な役割となった。キーボード演奏を行うことに決めて練習を始めたときも、iPadの活用はサポート的な役割を果たすこととなる。

## ○対象生徒の事後の変化

iPadの活用で音楽演奏の練習を取り組むようになり、はじめの一步を踏み出すことができた。

↓

操作が簡単そうだ。

iPadのアプリ『GarageBand』を使用することで、ギターのコード演奏ができた。

↓

本物のギターにチャレンジ！コード練習を行う。

練習すればできるんだ。

やってみたい。

↓

コードを押さえるための指に力が入りにくく、Fコードで断念することになった。

↓

演奏を行わない時期があった。

コードが押さえられない。難しいな。

↓

文化祭では、キーボードで演奏することを決め、BUMP OF CHICKEN 《天体観測》に取り組んだ。

↓

帰りの会ではキーボードでコードを合わせて弾くようになった。

キーボードの方が、演奏しやすいな。

↓

楽譜を持ち帰り、自宅でキーボードの演奏練習に励んでいる。

↓

「曲のレパートリーが増えるのがうれしい」と話している。

いろんな曲が弾けると楽しいな。

【報告者の気づきとエビデンス】

○主観的気づき

- ①音楽演奏に関して、iPad を活用しながら、自分で考え自分で行動することで根気よく取り組んでいる。
- ②やりたいことを口に出すことが多くみられるようになった。「音楽をやりたい」という思いのほかに、「スポーツをしたい」など。

○気づきに関するエビデンス

①に関して

エビデンス	エピソード	対象生徒の様子
○『GarageBand』を操作した。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新入生歓迎会の自己紹介では、『GarageBand』を使用し、レミオロメン 《3月9日》の曲をギター演奏で発表することができた。</li> <li>・自分から『GarageBand』を使用して発表することを決めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・操作に慣れるまで何度も練習していた。演奏ができるようになるまで1週間程度集中して取り組んでいた。</li> <li>・「家で練習したい」と iPad を持ち帰って練習した。</li> <li>・発表後も同曲を『GarageBand』で演奏しながら過ごしていた。友だちや教員からのリクエストに応じて演奏していた。</li> </ul>
○文化祭での発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループの話し合いを通して、iPad で演奏は他の生徒が行うことにした。友だちが iPad を使用するため、キーボードでの演奏に新しくチャレンジすることにした。</li> <li>・キーボードで片手のメロディ演奏を発表した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キーボードで練習することになったが、メロディの音を聞きながら指使いを練習し始めた。</li> <li>・時間を見つけて体育館や教室で練習に取り組んでいた。(図7)</li> <li>・メロディを暗譜して弾くことができた。</li> </ul>
○帰りの会での演奏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帰りの会の演奏でキーボードを両手で弾くようになった。※左手でコードを押さえるようになった。(図8・9)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までは耳で音を聞きながら鍵盤を押さえていたが、ある程度弾けるようになってから楽譜を見返すことで、楽譜が読めるようになってきた。(本人談)</li> <li>・『YouTube』の動画を見ても分からないときには、教員に質問することが多くなってきた。</li> </ul>
○3年生を送る会で、体育館のピアノで演奏を行った。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生を送る会で、GReeeeN《遙か》を1・2年生が歌うことになった。迷いながらも本番はピアノ演奏をしたいと自分から申し出た。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『YouTube』の動画を繰り返し見て覚える。</li> <li>・練習の時からキーボードでの演奏を練習し始めた。キーボードで演奏することで、みんなの歌声を合わせることができた。</li> </ul>



図7 「昼休みの練習風景」

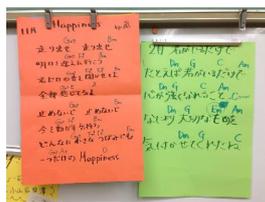


図8 「月の歌」

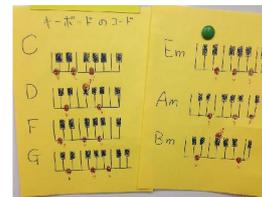


図9 「コード表」

## その他の気づき

- ・『YouTube』で弾きたい曲を探している。
- ・伴奏コードがわからないときには、『Google』で調べて解決するようになった。
- ・友だちと一緒に新しく弾いてみたい曲探しにも取り組んでいる。
- ・他の教員がピアノを演奏する様子を見て、「上手いなあ」という感想を述べている。

表 文化祭以降の帰りの会で演奏する曲&自分で探して見つけた曲

月	アーティスト&楽曲	備考
11月	嵐《Happiness》 BUMP OF CHICKEN《天体観測》	※「天体観測」は、A・Bメロ+サビまで。
12月	レミオロメン《粉雪》	コード サビ
1月	湘南乃風《純恋歌》	コード サビ
2月	米米CLUB《君がいるだけで》 SPICY CHOCOLATE 《ずっと feat.HAN-KUN&TEE》 GReeeeen 《遥か》(3年生を送る会)	コード サビ ※「遥か」では、後半の転調部分以外は演奏できた。

## ②に関して

教室で自分の席に座っていることが多く、誘いかけに対しても気分が乗り気な様子はなく、参加することがなかった。新入生歓迎会での音楽演奏を発表以降、毎日昼休みに『GarageBand』で演奏していた。友だちや教員からのリクエストに応じて演奏する場面も見られた。授業や日常での会話でも友だちと明るく話すようになり、音楽の話題で盛り上がっている様子が見られるようになった。

次にやってみたいことを聞いたところ、「スポーツをやりたい」との声が上がった。「体を動かせたらどのスポーツでもいい」との答えに対して、教員側でできそうなスポーツの中から卓球（激しく体を動かすことがなく、ペースに応じて取り組むことができることから選択。）を提示すると、「やってみる」という返事があり、自立活動の時間に1時間程度連続してボールを打ち合うことを続ける活動を行うようになった。

また、お昼休みには友だちや教員と体育館でボールのパス回しやバドミントンをするなど活動の幅が広がってきている。

## まとめ

音楽をやりたいという思いを実現するために、iPadの活用や周囲のサポートが助けになり、楽器演奏の難しさや手のしびれなどの困難さを乗り越えて演奏を行うようになった。現在も音楽演奏を続けている。

その他に、個別学習や総合的な学習の時間などでやりたいことを口に出すようになってきている。

今後の見通しは、生徒自身が現状を見つめつつ、やりたいことを見つける、そして、どのように実現していくのかを考えていくなど、さらなる自己決定が課題となってくる。

これからもiPadを活用することで活動の幅を広げて、様々な体験を積み重ねて充実した高校生活を送ることを期待している。



図10 「卓球に取り組む」

※使用したアプリ

『たくすこ』(図10)

卓球のゲームスコアを分かりやすく表示する。